

船舶事故調査報告書

平成22年6月3日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

委 員 横 山 鐵 男（部会長）
 委 員 山 本 哲 也
 委 員 根 本 美 奈

| | |
|---------|---|
| 事故種類 | 乗組員死亡 |
| 発生日時 | 不明（平成22年1月10日（日）07時10分ごろ、本船が発見された。） |
| 発生場所 | 不明（本船発見場所は、宮崎県新富町 ^{とんだ} 富田灯台から真方位168° 1.5海里（M）付近（概位 北緯32° 02.7′ 東経131° 30.6′）であった。） |
| 事故調査の経過 | 平成22年1月12日、本事故の調査を担当する主管調査官（門司事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者としての船長からの意見聴取は、本人が本事故で死亡したため行わなかった。 |
| 事実情報 | 船種船名、総トン数 船船番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等 乗組員等に関する情報 |
| | モーターボート ^{みきと} 美聡号、5トン未満 295-35002宮崎、個人所有 7.34m(Lr)×2.01m×0.79m、FRP ガソリン機関（船外機）、69kW、平成5年9月 船長 男性 69歳 二級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 平成2年11月15日 免許証交付日 平成17年4月19日 (平成22年11月14日まで有効) |
| 死傷者等 | 死亡 1人（船長） |
| 損傷 | 操舵スタンド脱落 |
| 事故の経過 | 本船は、平成22年1月10日05時30分ごろ、船長1人が乗り組み、新富町富田漁港を出港し、釣り場に向かった。 宮崎市及び新富町にまたがる一ツ瀬川の河口右岸に設置された導流堤で魚釣りをしていた釣り人が、07時10分ごろ、同導流堤先端から上流約100m付近で、転覆した状態で漂流している本船を発見し、海上保安庁に118番通報した。 09時20分ごろ本船発見場所から南東方約1,100m付近で、漂流していた船長が発見され、溺死と検案された。 |
| 気象・海象 | 気象：天気 曇り、風 なし、視界 良好 海象：波高 約1～2m、潮汐 下げ潮の末期、気温 約4℃ 日出時刻：07時15分ごろ |
| その他の事項 | 本船は、和船型モーターボートで、航海計器は装備されていなかった。 船長は、健康状態は良好で、疲れを訴えていなかった。また、救命胴衣を着用していた。 |

| | | |
|----|---|--|
| | <p>一ツ瀬川河口は、東方に向かって開口し、河口両岸には東西方向に延びる導流堤が設置され、その間が幅約130mの水路となっている。また、河口沖は、砂が堆積して遠浅となっており、東方の海上からうねりが寄せるときは大きな磯波が生じ、特に下げ潮のときは著しい高波が生じる。</p> <p>富田漁港は、一ツ瀬川河口両岸にまたがり、同漁港を基地とする小型船舶は、出入港の際、河口両岸に設置された導流堤の間を航行していた。</p> | |
| 分析 | <p>乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析</p> | <p>不明 不明 不明</p> <p>死因は溺死であった。</p> <p>本船は、富田漁港出航後、船長が落水した可能性があると考えられるが、落水した状況については、明らかにすることができなかった。</p> |
| 原因 | <p>本事故は、本船が富田漁港出航後、船長が落水したため、発生した可能性があると考えられる。</p> | |